

## 越前町議会・令和4年9月定例会一般質問【高田浩樹議員】

(令和4年9月7日 午後1時43分 開始)

○7番(高田浩樹君) まず、8月3日からの大雨により、東北・北陸地方を中心に甚大な被害が発生し、記録的な豪雨災害となりました。このたび被災された皆様に、衷心よりお見舞い申し上げます。また、被災地の1日も早い復旧、復興を心よりお祈り申し上げます。

それでは、議長のお許しをいただきましたので、通告書に基づき一般質問をいたします。

初めに、持続可能な財政運営について質問をいたします。

これまでの毎年の9月定例会、本町の財政状況が、決算が提出されるときに私自身、財政に関する質問をしてまいりました。総合振興計画での財政健全化の進捗状態であったり、歳入の在り方、公会計での指標の扱い方、また基金や町債の推移、そういった様々な切り口で質問させていただきました。

何でかといいますと、本町の財政が毎年どのようなところにあるのか、大きな流れでしっかりと捉えていくことが、今後の施策、事務事業の展開に大きく影響するからであります。

本来であれば、政策、施策、事務事業の必要性、優先度、妥当性であったり、効果や効率、そういったものと財政とを一体的に考えて、総合的に勘案して議論していく、そういうことも重要であります。今回、持続可能な財政運営、これについて、こちらの観点から質問をしていきたいと思っております。

初めに、本町の財政の現状について伺います。

○議長(笠原秀樹君) 総務理事。

○総務理事(杉本恭伸君) それでは、高田議員のご質問にお答えします。

越前町の一般会計の財政規模は、新型コロナウイルス感染症緊急経済対策により、大きく増加した令和2年度を除くと、おおむね140億円規模で推移しております。

次に、実質単年度収支については、平成19年度から平成28年度までは黒字を維持してきたものの、平成29年度からは毎年度赤字となっており、財政調製基金から取り崩しを行わざるを得ない財政運営が続いておりました。令和3年度は、5年度ぶりの黒字となっております。

歳入については、自主財源である町税収入は約21億円から約24億円で、法人町民税は毎年おおむね横ばいで推移し、景気の動向によって変動するほか、歳入において大きな割合を占める普通交付税は、令和3年度では約49億円でしたが、平成26年度の合併算定替の縮減期間前と比較すると、7億円の減少となっております。一方で、ふるさと納税寄附金については、巣籠もり需要などが後押しして、令和3年度は約5億円となり、前年度の3倍と大きく伸びております。

また、歳出については、人件費は約20億円で推移しており、扶助費は少子高齢化等の進展に伴う社会保障関係費の増大により年々増加し、10年間で約1.3倍の約22億円となっており、また公債費は町債の計画的発行や繰上償還により、平成19年度の29億円をピークに減少し、現在は12億円程度で推移しております。

以上でございます。

○議長（笠原秀樹君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） 実質単年度収支が、ここしばらく毎年のように赤字が続いていたと思います。毎年財調からちょっとずつちょっとずつ切り崩して数年来ていたと思います。これがどれだけ続くのかなと、この幅がどれだけ広がるのかなと置いていたところ、昨年度黒字化したということで、一安心と言うとあれですけども。でも、あくまで単年度の話なので、これもまだまだ心配な、いろいろな指標を見て、心配な要素もあるかと思うんですけども。ただ明るい材料としましては、ふるさと納税が大幅に伸びている、ここは本当に本町にとっていいニュースだと思っております。これからも、この伸びが続いていけるよう、いろいろとまた工夫していただきたいなと思います。

また、そういった本町での財政分析をしていく上で、こういったところをポイントにしたり、評価軸に置いたり、これはこういったことがあるとちょっと財政逼迫の重要なシグナルになるんじゃないかと、いろいろ考えられるところがあると思うんですけども、要するに何を重視しているか、分析上、それについて伺います。

○議長（笠原秀樹君） 総務理事。

○総務理事（杉本恭伸君） 財政運営の中で重視していることは、財政運営の健全化の度合いを示す経常収支比率、実質公債費比率、将来負担比率の三つの財政指標に着目しており、財政状況を把握するための尺度として重要と考えております。

この指標について、5年前の平成28年度との比較要因を申し上げます。

まず、経常収支比率については、財政の弾力性を示す指標で、おおむね70から80%が適正水準と言われており、令和3年度は95.1%で、平成28年度と比較して5.2ポイント上昇し、悪化しております。主な要因としては、経費面における扶助費、物件費、補助費等の増加によるものです。

次に、実質公債費比率については、実質的な公債費の財政負担を示す指標で、健全と判断される比率は25%未満とされており、令和3年度は8.8%で、平成28年度と比較して0.3ポイント低下し、改善しております。主な要因としては、計画的な町債の発行や繰上償還の実施、金利の低い資金への借換えなどにより、償還額が減少したことによるものです。

次に、将来負担比率については、標準財政規模に対する将来負担すべき負債の比率を示す指標で、健全と判断される比率は350%未満とされており、令和3年度は15.4%で、平成28年度と比較して13.5ポイント上昇し、悪化しております。主な要因としては、町債の現在高が増加し、町債の償還に充てることができる基金現在高が減少したことによるものです。

なお、ただいま申し上げました三つの指標について、県内平均と比較すると、経常収支比率と実質公債費比率は高い水準にありますが、将来負担比率は低い水準で推移しております。

以上です。

○議長（笠原秀樹君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） 重視している指標として、経常収支比率、実質公債費比率、将来負担比率の三つを今挙げられたと思います。この三つを複合的に考えて、いろいろと分析されているということなのかなと思います。現状として、先ほどご答弁にありました実質公債費比率、将来負担比率については、おおむね良好なところなのかなと考えます。

一方、経常収支比率については、気になる点もありますけれども、実質単年度収

支が今回黒字になりましたし、単年度で言えば、健全化に向かっているような状態でもあるかなと考えられます。

ただ、今おっしゃられた将来負担比率、これの主な分子に当たる部分は、当該年度の前年度末に抱えている地方債の現在高、町債の残高、これに対しての比率ということになりますし、実質公債費比率についても、公債費として充当しているものの3か年分、これの平均の比率、そういった算定方法になっております。

何が言いたいかといいますと、これらの指標は近年のある段階での本町の抱えている町債の現在高、また充当している公債費、こういったものから算出したものであり、あくまでその段階でのものであり、将来にわたる公債費であったり、また積み上がる町債、そういったものを当然勘案しているわけではないということです。これからのことを、将来に向かってのことを考えていく上で、有形固定資産減価償却率、こういった指標であったり、当然人口減少とか少子高齢化、そういった人口構造の変化の影響など、将来のことに関しては、そういったことをしっかりと勘案していかなあかんと思うんですけども、そういったいろいろな要因、要素、あると思うんですけども、財政について将来の想定、これについてどのように分析しているのか伺います。

○議長（笠原秀樹君） 総務理事。

○総務理事（杉本恭伸君） 財政の今後の見通しと分析については、まず歳入では、町税収入が新型コロナウイルス感染症や人口減少等に伴い、微減傾向で推移すると見込んでいます。また、普通交付税については、人口減少等の影響により、減少することが見込まれます。

一方、歳出では、人口が減るものが高齢者人口の増加によって、扶助費は今後も増加傾向が続いていくと予測され、老朽化した公共施設、インフラ施設に係る費用の増加も予測されます。

このため、健全化方策を実施しない場合、経常収支比率が100を超える見込みとなっています。

次に、有形固定資産減価償却率については、100%に近いほど施設の老朽化が進んでいることを示すもので、令和2年度では65.4%となっており、平均的な範囲である50%から15.4ポイント超過している状況にあります。

近年は役場本庁舎の建替えや学校給食センターの統廃合等の実施により、一部の施設で更新を進めましたが、今後も有形固定資産減価償却率は上昇傾向が続くと推測しています。

また、公共施設やインフラ施設の整備といった資産形成を行う財政的余裕度がどれだけあるかを示す行政コスト対税込税率については、令和2年度では107.8%となっており、平均的な範囲である110%の範囲内にあるものの、資産形成の弾力性は厳しい状況にあります。

公共施設については、人口構造の変化に伴い、利用需要も変化することが想定されますので、現在策定中の越前町公共施設等総合管理計画に基づき、維持管理、更新、統廃合を計画的に行っていくことが必要になると考えております。

以上です。

○議長（笠原秀樹君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） 今、有形固定資産減価償却率のお話が出たと思うんですけども、65%以上という高い数値になっております。これは、あくまで、ただ全ての公共施設等を合わせて、まるっとした数字でありまして、これはまだ今策定中ということであるんですけども、この案ですね、この公共施設等総合管理計画の案

を見ますと、これに施設の分類別で有形固定資産減価償却率が示されていまして、また施設の構成比というか、比率も示されているんですけども、これを見るとどういった分野の施設が老朽化が進んでいるかというのが、あくまで現段階、令和元年の段階なんですけれども、これが分かりやすくなっています。

本当に今回これ見直しを行ったことで、すごく見通しがよくなったなというのは、個人的には思っていますし、これは見通しがよくなったのは間違いないかなとは思っています。どういったことがポイントなのかというのが、この計画から、ただある程度この計画もデータの部分は更新していかないとあかんのかなと、何年間に1回かは、とは思うんですけども、本当に今回更新してよかったなと思います。長期的な大きな流れを、これで行き届かせることができるようになったので、まだ案なので、今後また今回の一般質問のあれじゃないので、これに関しての言及はしませんが、またいずれはしっかりしていきたいなと思っています。

これまでの答弁を踏まえまして、持続可能な財政運営のための今後の展開について、町長に伺います。

○議長（笠原秀樹君） 町長。

○町長（青柳良彦君） それでは、持続可能な財政運営についてお答えをいたします。

我が町の財政力指数は0.33と、自主財源に乏しく、また経常収支比率も令和3年度は95.1%と、他市町と比較しても高く、次年度以降は100を超える見込みであり、財政の硬直化が一段と進むことが考えられます。

一方、将来負担比率は伸びてはいるものの、県内市町と比べて高くなく、これまで起債を多く起こして将来にツケを回すような財政運営はしてきておりませんでした。このことから、我が町においては、歳入に見合った堅実な財政運営をしていくことが肝要であると考えております。

また、南越前町のような突発的な災害等に対応するためにも、財政調製基金を蓄えておくことも大切です。

私は、財政健全化に取り組み、人に優しく地域に優しいまちづくりを基本姿勢に、住みやすさを追求したまちづくりを進めていきます。

現在のような縮小時代にあっては、真に必要なものを選択集中し、時には退くこと、縮むことも否定的に捉えるのではなく、生活のしやすさを追求しながら、小さく賢く成長していくことが、今後のまちづくりのあるべき姿であると考えています。そして、長年住み続けた結果、この町に住んでいてよかったと思える町を目指してまいりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

○議長（笠原秀樹君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） 町長のご答弁、誠にごもっともだと思います。

ただ、1点だけ気になるところがありまして、いろいろなことを勘案しておっしゃったのかなと思うんですけども、これまで起債を起こして将来にツケを回すような財政運営はしていないというふうにご答弁でありましたけれども、起債に対して慎重にされてこられたというのは、そのとおりだと思いますし、将来負担比率、そういったものにも、この場合、町長の時代とは、ちょっと遡ったところから計算される部分もあるかと思うんで、あれなんですけど、将来負担比率にも表れているものかなと思います。

ただ、さっきから出ている有形固定資産減価償却率、これが高いということは、将来に多くの施設の更新が控えていると。言い換えれば、施設の更新が進んでいない。先延ばしとまでは言いませんけれども、進んでいない状態であると。いずれは将来にわたり更新していかねばならない、そうならば町債が積み上がり、

公債費を充当していく財源が増えていく。そういった可能性は十分にあると考えられます。

先ほど重視していると言っていた経常収支比率、実質公債費比率、将来負担比率、これらに関して、公債費であったり町債、地方債の現在高であったり、こういったものが重要な変数になっているんですけれども、そういったことを考えると、この三つの指標を重視しているのであれば、有形固定資産減価償却率、これについてもしっかりと見ていただきたい、そのように思います。

ただ、町長がおっしゃるとおり、本町の財政調製基金、しっかりとあります。また、それ以外の基金もしっかりとあり、ある程度何かがあっても耐えられる、そういった財政状況に現在なっておりますし、町長のご答弁でも財調をしっかりと残していくんだというような話もありました。

先ほどの時田議員の災害のときのお話でもありましたが、現在、雨、豪雨がいつ、どこで起こるか分からない、そういった状況でありますし、雪に関して言えば毎年降るのが前提というか、降るのは間違いない、ほぼ間違いない状況であります。それが豪雨になることもあるかもしれませんが、長引くかもしれない。そんなときに当初予算を持っていても、それから大きくまた出していけないといけない、そんなときには、しっかりとこの財政調製基金がないと、すぐに財政が逼迫してしまう。

隣の町、隣の市が財政的に同じように雪が降っているのに耐えられているのに、越前町だけ財政が逼迫する、そのような事態はあってはならないと考えております。

いずれにしましても、持続可能な財政運営という観点で、長期的、複合的な視野で、財政逼迫となるようなシグナルを見逃さないように努めていただきたいと思いますとともに、私たち議員も議会も、同様の責務があると考えておりますので、そのように努めていきたいと思っております。

次ですけれども、公共施設等のトイレ洋式化を含めたユニバーサルデザインの推進について質問をいたします。

これからの公共施設等については、先ほどから何度もお話に出ている公共施設等総合管理計画、これに基づいて大枠では進んでいくところなのだと思うんですけれども、施設そのものについては、誰にとっても使いやすいように改善していく、そういったことが大切でありますし、その中でもトイレの洋式化、これが重要になると考えております。

何でかといいますと、一般の住宅におけるトイレの洋式の保有率、これは14年前の2008年でも約90%近くにいます。どういうことかといいますと、ほとんどの方が洋式に慣れて、洋式で利便性を確保していると。逆に言うと、和式トイレが不慣れな状態、そういった状態が長年続いて定着している状況だと言えると思います。

また、膝や腰に不安がある方、また転倒のリスクがある場合は、洋式トイレのほうが断然よいですし、災害時の避難所、公共施設等であれば、そういった可能性があると思うんですけれども、2016年6月の熊本地震では、避難所で一番困ったことは何かというのがトイレの問題。その中でも、洋式トイレがないということが一番、洋式トイレがなく和式トイレが多かったことが一番困ったこととして挙げられていました。洋式トイレは、そういったときには長蛇の列となり、回数を減らそうと水分摂取を避けて、健康障がい招く例が数多く発生したと言われております。

内閣府が公表した避難所におけるトイレの確保、管理、ガイドラインでは、目標とするトイレの数、これは洋式トイレのことを指しており、和式トイレはその中でカウントされないと、そういった状況であります。

また、感染対策、この観点からも、蓋のある洋式トイレ、和式トイレと比べ飛沫拡散防止に効果があると言われております。

現在、私たちの生活様式、身体的な観点、また感染症や災害時、そういった観点からも、公共施設等におけるトイレの洋式化は重要だと考えられますが、本町の公共施設等におけるトイレの洋式化の現状について伺いたいと思います。

○議長（笠原秀樹君） 総務理事。

○総務理事（杉本恭伸君） それでは、本町の公共施設等におけるトイレの洋式化の現状についてですが、公共施設は183施設あり、その中で町民や町内に訪れる一般の方々を利用する主な公共施設は121施設あります。

施設の内訳については、町役場、各地区コミュニティセンターなど行政施設は6施設、保育所やデイサービスセンター、福祉センター、病院などの保育所、福祉施設は24施設、多くの観光客などが利用する道の駅や宿泊施設、特産品販売所などの観光施設は28施設、住宅や団地などの住居施設は16施設、憩いの場を利用される公園施設は13施設、小中学校や給食センターは13施設、学びや体験、集会や運動などの文化スポーツ施設は21施設あります。

これらの公共施設のうち、91.7%に当たる111施設においては、既に洋式化されており、特に近年には多くのトイレ洋式化に取り組んでおり、令和2年度においては2施設、令和3年度においては13施設、計15施設のトイレ洋式化を実施いたしました。

また、これまで和式トイレから洋式化する場合、1か所程度和式トイレを残す形で進めております。現在、公園施設で5施設、観光施設で1施設、住居施設で2施設、文化スポーツ施設で2施設の計10施設のトイレについては、洋式化されていない状況ですが、6月議会定例会により議決いただきました新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、トイレ改修費3,394万円により、年度内には洋式化未整備施設10施設のうち、3施設において洋式化が完了することになります。

そのほか、残りの7施設に関しましては、公園の屋外トイレや老朽住宅等でありますので、使用状況等を踏まえ、改修等の必要性を慎重に検討してまいります。

なお、年度内における整備率は94.2%となり、公共施設のトイレの洋式化はほぼ完了するものと考えております。

一方、各地区集会施設におけるトイレ洋式化の現状についてですが、まず町所有の集会施設は19施設あり、全ての集会施設において洋式化されています。次に、各地区において管理している集会施設は72施設ありますが、トイレ洋式化については把握できておりません。しかしながら、平成17年度以降、集会施設の新築や増改築、修繕等に係る経費の一部を補助する越前町集会施設等建設補助金制度により、令和3年度までのトイレ洋式化に関する補助実績を集計しますと、26集会施設が洋式化を実施しております。

今後も当該補助制度を引き続き継続していく予定であり、各地区区長に情報提供していきたいと考えております。

以上です。

○議長（笠原秀樹君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） 今回このトイレ洋式化についての一般質問をするに当たり、いろ

いろと調べたんですが、本町のトイレ洋式化率というのは、恐らく全国的にも、また県内市町の中でも、ずば抜けて進んでいる、そういう状況であるのではないかと、これは本当に誇らしいことでもあります。特に近年、また現在進行形で、今ご答弁にありましたように、臨時交付金を活用しながら、このトイレの洋式化を進めたことは、感染予防はもちろんですけれども、先ほどからも言っていますように、現在の住民の方々の生活様式における利便性であったり、高齢化の観点、また災害時、そういったことを考えて、とても有効な取組みをしてきたのだと考えております。

各地区が管理している集会施設については把握していないとのことでありましたが、地域の住民の方々にとって、ある意味最も身近な施設でありますし、高齢者の方が使う頻度が多い施設であると思います。

ご答弁にあったように、これらの補助事業について、各地区からトイレの洋式化の要請、そういったものがあつた場合は、また今後、積極的に推し進めていただくよう要望します。

次ですけれども、ユニバーサルデザイン、ユニバーサル、普遍的な、全体のという言葉が示しているように、全ての人のためのデザイン、みんなに優しいデザイン、こういったことを意味しまして、年齢や能力、障がいの有無、状況に関わらず、できるだけ多くの人たちが利用可能なよう、使いやすいようデザインしていくと、こういった考え方であります。

具体的には、先ほどからお話し、ご答弁いただいたトイレの洋式化もその一つなんですけれども、自動ドア、出入り口の段差の解消、センサー式蛇口、こういったものもありますし、情報のユニバーサルデザインとして、ピクトグラム、絵文字による表示であったり、音声案内、見やすい本と、そういったものがあります。これらの本町での公共施設におけるユニバーサルデザインに関する取組みについて、現状を伺います。

○議長（笠原秀樹君） 総務理事。

○総務理事（杉本恭伸君） それでは、本町の公共施設等におけるユニバーサルデザインに関する取組み状況について、お答えいたします。

本町の取組み状況は、役場本庁舎の事例を申し上げますと、正面玄関及び東側玄関の自動ドアや、だれでもトイレの設置、トイレのセンサー式蛇口や色や番号で区分された各課の表示サイン、視覚障がい者誘導用ブロックや、議場傍聴席の車椅子専用スペースの設置、授乳室、ゆとりの駐車スペース、障がい者優先駐車スペースの設置、駐車場や全てのフロアを対象とした段差の解消やエレベーターの設置、本庁舎2階部分から生涯学習センターへつなぐ連絡通路のスロープ化、階段の2段手すりの設置や点字シールによる誘導など、多くのユニバーサルデザインによる整備が施されております。

また、ソフト面においても、町のホームページでは、言語選択や文字サイズを選択、文字色、背景色の選択、音声読み上げなどの機能を備えております。

そのほか、各地区コミュニティセンターにおいては、平成22年度から25年度に新築や改修を行っている状況であり、ユニバーサルデザインによる取組みとして、自動ドア、だれでもトイレ、トイレのセンサー式蛇口の設置や段差の解消、視覚障がい者誘導用ブロック、障がい者優先駐車スペース、エレベーターの設置等があり、おおむねユニバーサルデザイン化されているものと考えております。

次に、町内の観光施設や文化スポーツ施設等においては、役場本庁舎並みにユニバーサルデザイン化されているとは言い難い状況であり、主な未整備内容として

は、自動ドア、だれでもトイレ、トイレのセンサー式蛇口や視覚障がい者誘導用ブロックの設置等が挙げられます。

今後は利用状況や利用者の意見等を考慮し、必要に応じて改修等を検討していきたいと考えております。

以上です。

○議長（笠原秀樹君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） ユニバーサルデザイン化が進んでいない公共施設等については、また今後、利用状況と利用者の意見等を考慮して検討していくということでしたので、またよろしくをお願いします。

例えば私たちも病気やけが、そういったことがあったときに、いろいろなそういうときに施設を訪れたときに、こういったところがふだん気づかなかったですが、こういうところがあってよかったなど、ユニバーサルデザイン化が進んでいてスムーズに行けたなということが分かったり、また逆にそういうときに、こういったところがちょっと不便だなということに気づくこととというのがあるかと思えます。ただ、それが一時的なものであれば、また忘れてしまうこともあるかもしれませんけれども、それが長期にわたって必要な方、そういった方も多くおられると思います。

地域には子ども、高齢者の方、障がいのある方、外国人の方、いろいろな方が住んでおります。誰もが暮らしやすい地域社会にしていくためには、建物や製品、そういったもののハード面、これのユニバーサルデザイン化も当然重要ですが、地域の住民一人ひとりが相手の立場に立って思いやりのある行動ができる、いわゆる心のユニバーサルデザイン、そういったことも大切だと思うんですね。

こういったことに関連する取組みについて、現状を伺います。

○議長（笠原秀樹君） 民生理事。

○民生理事（山口隆司君） それでは、心のユニバーサルデザインに関連する取組みについて、お答えいたします。

町民がみんなで支え合い助け合う福祉のまちづくりを実現するには、町民一人ひとりが福祉に対する意識や認識を高め、地域社会の一員であることを理解することが大切です。そのため、町では子どもが思いやりのある行動ができる心を育むため、車椅子体験等の福祉学習を小中学校で取り入れております。

高齢者を含む全ての町民には、今年度から青少年育成大会と男女共同参画のつどい合同で開催し、LGBTQ、いわゆる性的少数者への理解を深める啓発活動を実施します。

障がいのある方には、身体障がい者協会によるレクリエーション等の障がい者の集い事業を実施しております。

外国から来られた漁業技能実習生には、日本の生活への理解や充実を図るため、町漁協による日本語講座や生活マナー講座を実施しております。

さらに、心や生活のよりどころとして、心をいやす相談会の開催や成年後見制度の周知、引きこもりの相談や就労支援などの取組みを実施しております。

これらの心のユニバーサルデザインに関連する取組みを、令和3年度に策定した第4次越前町地域福祉計画の基本目標である地域福祉を支える人づくり、誰もが住み慣れた地域で生活できる地域づくりに生かしながら、人のつながりを大切にし、お互いに助け合う思いやりの町の実現を目指してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（笠原秀樹君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） それぞれの個性であったり、それぞれの生き方を尊重しながら、また助け合いができるよう、心のユニバーサルデザインを意識した地域での取り組みを、地域福祉計画の施策、そういったことも含めて、また今後も推し進めていただきたいと思います。よろしくお願いします。

まだ案の段階ではあるんですけども、公共施設等総合管理計画、これにおいてユニバーサルデザイン化の推進、これについての言及があります。長期にわたる公共施設等に関する総合計画でありますから、時代の流れとともに柔軟に対応できるように大枠での方針にとどめてある、そういったことは理解できるんですけども、具体的な内容に踏み込んで言及してあるものではないものです。それでも、まずもって当該計画で実施方針としてしっかりと示された、このことについては今後の展開に大きな意味があると考えております。

これまでのご答弁にもあった本町の現状等を踏まえ、ユニバーサルデザインの推進に関する今後の展開について、町長に伺います。

○議長（笠原秀樹君） 町長。

○町長（青柳良彦君） それでは、ユニバーサルデザインの推進に関する今後の展開について、お答えをいたします。

先ほどの答弁にもありましたように、トイレの洋式化を含めた公共施設等のユニバーサルデザイン化を推進し、年齢や性別、身体の状態、言語、国籍などの人々が持つ様々な違いに関わらず、できるだけ多くの方が同じものと同じように使えるような施設づくりを進めてまいりたいと考えております。

また、ハード面を中心に着実な進展が見られる中、ソフト面として、心の優しさや思いやりの精神により、町民同士が助け合う心のユニバーサルデザインも重要であると考えております。

町民を対象とした学習や支援、相談会などを通し、町民に寄り添うことの重要性について理解を深め、町民同士が自然に支え合うことができるように、取り組みを継続していきたいと考えております。

最後に、現在作成を進めております越前町公共施設等総合管理計画において、現状維持の方向性を示している公共施設につきましては、今後持続可能なユニバーサルデザインの推進を検討し、またユニバーサルデザインに配慮した整備に努め、誰もが安全で安心して快適に過ごすことのできる人に優しく地域に優しいまちづくりを目指していきたいと考えております。

以上です。

○議長（笠原秀樹君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） 今後また、今、町長のご答弁にあったように、ユニバーサルデザインの推進に配慮した整備に努めていくということでしたので、またよろしくお願いします。

また今後、人口規模、また先ほどの質問でもしましたけれども財政規模、また社会や地域の情勢、こういった様々な分野での適正化を図っていかねばならないと、そういったことがこれから多くあるかと思えます。直面していく現実的な課題、これに対しての対応が迫られてくることになるかと思うんですけども、一方、これからも希望を持って、可能性を信じ施策を展開していく。ユニバーサルデザイン化の推進、これもその一つですけども、できることは着実にやっていく、そういったことが重要であると考えます。

町長の掲げる人に優しく地域に優しいまちづくり、大変すばらしい理念であり志

だと思っんですけれども、このための施策の展開が着実に進むことを期待しております。また、私たち議員、議会もしっかりチェックしながら、意思決定をしていきたい、そのように考えております。

今回の私の一般質問は、以上です。

(午後2時28分 終了)